

(仮訳)

## 共同記者発表：バイデン米副大統領、がんムーンショット・イニシアチブに対する日米韓 3ヶ国の協力を歓迎

バイデン米副大統領は、がんムーンショット・イニシアチブへの支援を目的とする米国、日本、韓国 3ヶ国の協力について議論するため、3ヶ国の保健専門家による会合を開催した。シルビア・バーウェル米保健福祉長官による先導の下、塩崎恭久厚生労働大臣、チョン・チンヨブ韓国保健福祉部長官、3ヶ国の政府職員が、既存の協力分野を振り返るとともに、今後新たな協力を行う可能性を模索した。現在我々が知るところのがんに終止符を打つ(※1)ことを共通の目的として、がん研究へのさらなる支援、予防・検診・診断の拡大、データの国際標準化及び共有が主な議題となった。

※1 原文は「end cancer as we know it」。現在我々が(多くの人がかかるといわれる病気であると)知るところのがんに終止符を打つ、つまり抜本的ながん対策を進めてがんを苦しむ人々を大幅に減らすとの意。

我々の共通目標は、①最先端の生物医学センターが参画する統合的かつ学際的な国際共同体の設立、②研究データと分析結果を世界に公開することを通じた、国際的ながんプロテオゲノミクス研究(※2)に関する努力の連携的統合への貢献、③個々の患者にあわせた腫瘍への治療方法を特定するのに役立つプロテオゲノミクス上の特性を用いた、薬剤反応及び毒性に関する臨床的課題の検討、④世界中のがん、人々、集団の多様性に対する理解を深めるために、増大するプロテオゲノミクスのデータセットの解析に対して深層学習アルゴリズムを利用することを世界のデータ科学者に勧めることであり、これらは、3ヶ国の保健研究及びがんに関する機関の専門家による仕事を結びつける努力を補完するものである。これらの目標を達成するため、日本と韓国の機関は、米国の機関と、がん研究に関する協力覚書の調整を行った。

※2 がん細胞を含む生体内のたんぱく質の構造及び機能を、ゲノム上の遺伝子と関連づけて分析する研究。

その他の参加者は、米ホワイトハウス科学技術室長ジョン・ホールデン、米国立衛生研究所所長フランシス・コリンズ、米国立がん研究所長代理ダグ・ローウィ、日本医療研究開発機構理事長末松誠、国立がん研究センター理事長中釜斉、国立がん研究センター研究所長間野博行、韓国国立衛生研究所長パク・ドジュン、韓国国立がんセンター長カン・ヒュンリら。

オバマ大統領がこの取組みを立ち上げたのは、2016年の一般教書演説で、現在我々が知るところのがんを無くすためのがん「ムーンショット」イニシアチブをバイデン副大統領に先導するよう要請したときであり、続いて、通常10年間かかる進展を5年間で達成するために10億米ドルを拠出することを表明した。より多くの治療法をより多くの患者が利用できるようにするとともに、がんの予防と早期発見を可能にするために、バイデン副大統領は、先進各国にこの挑戦に協力するよう要請した。3月31日の日米韓首脳会談において、オバマ大統領、安倍晋三首相、パク・クネ大統領は、がん研究に向けたイノベーションと取組みの専門知識と精神を高めるために、3ヶ国で協力することに合意した。この協力は、すべての人の平和と安定を高める視点から、強力で、建設的な、未来志向の地域及び世界的関係を推進するという、日米韓共通のコミットメントに基づくものである。